

京都市民の読書傾向 — 「国民読書年」にちなんで—



今年、平成22年(2010年)は、「国民読書年」です。  
そこで、京都市民の読書傾向を、統計から探ってみます。

○京都市民が多くのお金を使う印刷物は？

「京都市民は、どのような印刷物(新聞・雑誌・書籍(本)など)に、どのくらい出費しているのか。」を、総務省統計局の家計調査結果(二人以上の世帯)でみてみます。

まず、表-1で、平成19年から21年までの平均データで「書籍・他の印刷物(注1)(以下「印刷物全体」といいます。))」、「新聞」、「雑誌・週刊誌」、「その他の印刷物(注2)」への1年間の支出額を、都道府県庁所在地に川崎市と北九州市を加えた49市と比較します。京都市は「その他の印刷物」への支出額が49市中8位、「新聞」が同9位、「印刷物全体」が12位になったのははじめ、いずれも全国平均を上回りました。

一方、支出額が1位の市と京都市とを比較すると、「雑誌・週刊誌」、「書籍」、「その他の印刷物」において、京都市の支出額は、1位の市の7割前後となりました。また、「新聞」及び「印刷物全体」においては、同じく1位の市の9割前後でした。

(注1) 書籍及び書籍以外の印刷物の合計。

(注2) 「新聞」、「雑誌・週刊誌」、「書籍」に分類されない印刷物。プログラム、カレンダー、日刊でない新聞など。

表-1 書籍及び他の印刷物への1年間の支出額及びランキング(平成19年から21年までの平均)

	印刷物全体 (書籍・他の印刷物)	新聞	雑誌・週刊誌	書籍	その他の印刷物
金額(円)					
全国	51,514	35,958	4,513	9,446	1,597
京都市	55,591	38,824	5,031	9,844	1,892
京都市順位(49市中・位)	12	9	23	29	8
1位の市・金額(円)	奈良市・62,382	千葉市・41,980	長野市・7,439	川崎市・13,953	高知市・2,746

次に、図-1で、「印刷物全体」と、印刷物の中で支出額の大きい「新聞」及び「書籍」について、京都市及び全国の支出額の推移を、過去10年分(平成12年から平成21年まで)のデータをもとに、3年ごとの平均値でみてみます。

京都市における「印刷物全体」及び「新聞」への支出額を全国と比較すると、いずれも京都市が上回っています。一方、「書籍」への支出額は、全国をやや下回っている時期があります。

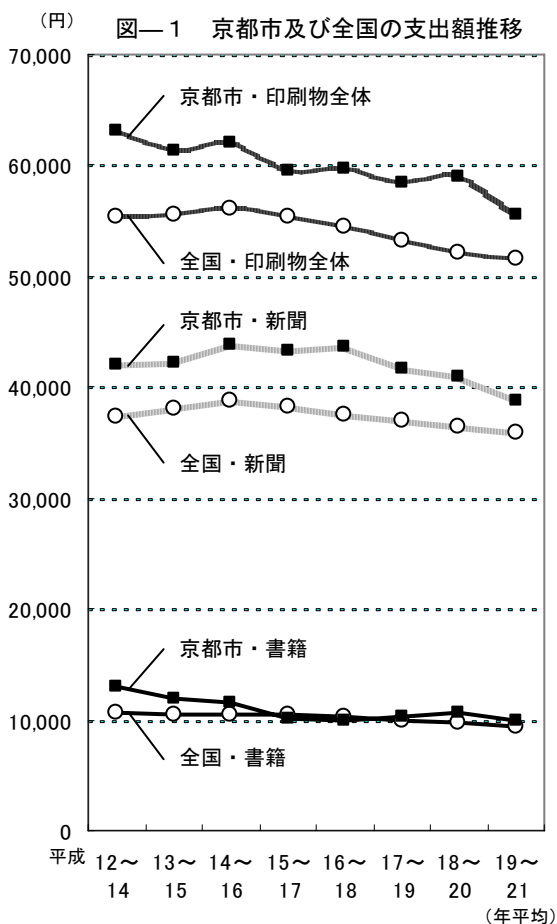
続いて、「印刷物全体」、「新聞」及び「書籍」への支出額自体をみると、京都市、全国ともに減少傾向にあり、いずれも、最新のデータ(平成19年から21年までの平均値、以下「19~21年平均」といいます。)が、最も少ない額となっています。

京都市の、この期間における推移をみると、「印刷物全体」への支出額は、この期間内で最も多かった12~14年平均に比べて、約7600円、12.0%減少しました。また、「新聞」への支出額は、14~16年平均に比べて、約5000円、11.5%減少しました。「書籍」への支出額は、12~14年平均に比べて、約3100円、24.2%減少しました。

全国の、この期間における推移をみると、「印刷物全体」への支出額は、この期間内で最も多かった14~16年平均に比べて、約4700円、8.3%減少しました。また、「新聞」への支出額は、14~16年平均に比べて、約2900円、7.3%減少しました。「書籍」への支出額は、12~14年平均に比べて、約1300円、11.9%減少しました。

京都市と、全国の支出額との減少幅を比較すると、「印刷物全体」、「新聞」及び「書籍」のいずれも、京都市の減少幅が全国よりも大きくなりました。

図-1 京都市及び全国の支出額推移



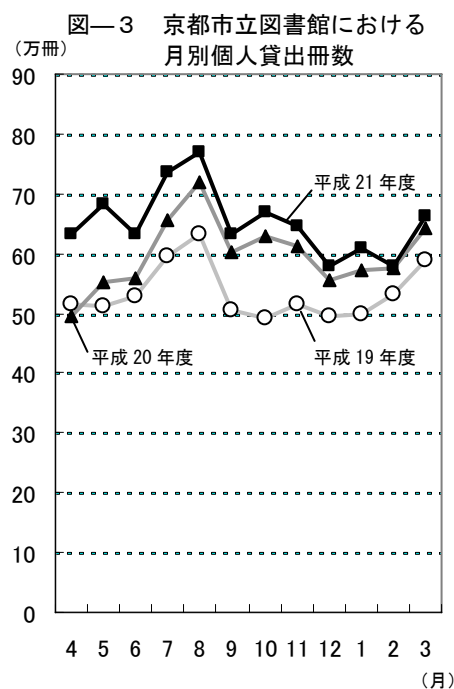
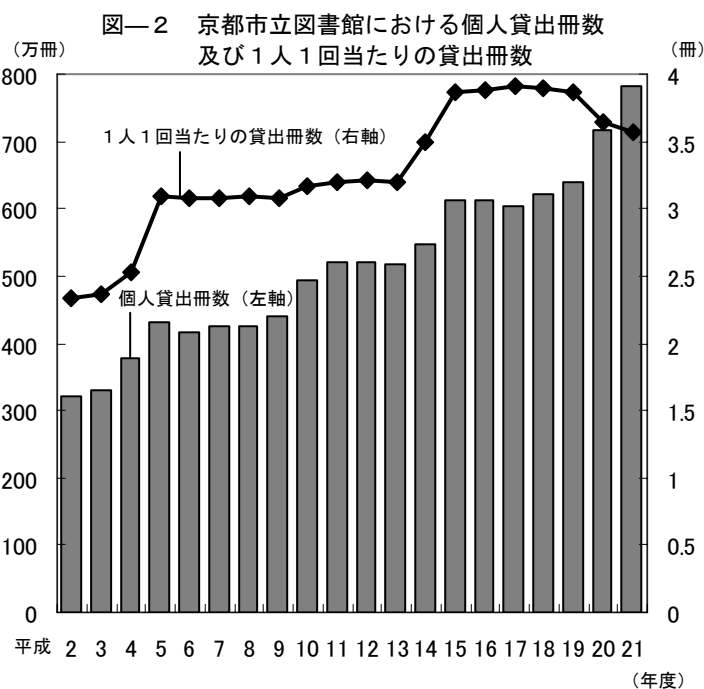
○京都市立図書館の利用状況は？

前ページで、京都市民が書籍や新聞に使うお金は、減少傾向にあることがわかりました。

では、図書館の利用状況はどうでしょうか。京都市立図書館に関する統計を、「京都市図書館統計概要」や「京都市統計書」、「京都市統計情報<電子版>」でみてみます。

まず、図-2で、個人貸出冊数をみると、平成21年度は783万3762冊となり、10年前（平成12年度）の520万501冊からは約1.5倍に、20年前（平成2年度）の319万9790冊からは約2.4倍に増加しています。また、2年前（平成19年度）と比べても、約1.2倍に増加しています。一方、1人1回当たりの貸出冊数をみると、20年前（平成2年度）の2.33冊から増加傾向にあったものの、平成17年度の3.91冊をピークに、平成18年度以降は減少しており、平成21年度は3.56冊となっています。

また、図-3で、平成19年度、20年度、21年度の個人貸出冊数を月別にみると、いずれの年度も最も多いのは8月で、次いで7月となり、夏休み期間に貸出が多い傾向がみられました。一方、他の月の傾向は年度ごとに異なり、平成21年度は5月の貸出冊数が3位となった一方、平成19年度及び20年度は3月が3位となりました。



最後に、どの分類の本に人気があるのかを、京都市立図書館のホームページ「おこしやす京都市図書館へ (<http://www.kyotocitylib.jp/index.html>)」におおむね週1回掲載される「人気のある本」から探ってみます。

「人気のある本」には、予約が100冊以上ある本が、多いときで第100位まで掲載されます。このうち、今年、「平成22年6月28日現在分」から「11月1日現在分」までの約4箇月間に、一度でも予約が200件を超えた本は、69冊（上下巻はまとめて1冊と数えます。）となりました。

これを、表-2で、分類別にみると、「文学」に大きく偏っていることがわかります。「文学」以外で予約が200件を超えた本は、全体の2割弱に当たる13冊しかありませんでした。

一方、同じく表-2で、平成22年4月1日現在の蔵書全体の分類別冊数及び割合をみると、「文学」が全体の約3分の1となっているのをはじめ、「社会科学」、「歴史・地理」、「芸術・体育」がいずれも1割を超えるなど、「人気のある本」とは大きく異なっています。

さて、皆様の読書傾向は、統計データからみた「京都市民の読書傾向」と比べて、いかがでしょうか？

表-2 「人気のある本」のうち予約200件以上を記録した蔵書（平成22年6月28日現在分から11月1日現在分まで）及び蔵書全体（平成22年4月1日現在）の分類別冊数及び割合

	総記	哲学	歴史・地理	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・体育	言語	文学
人気のある本										
冊数(冊)	—	3	1	2	1	3	—	1	2	56
割合(%)	—	4.3	1.4	2.9	1.4	4.3	—	1.4	2.9	81.2
蔵書全体										
冊数(冊)	51,932	53,790	145,163	190,191	82,496	112,799	40,842	132,741	23,464	414,613
割合(%)	4.2	4.3	11.6	15.2	6.6	9.0	3.3	10.6	1.9	33.2